

平成 29 年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程・ 学習指導	<p>①フレキシブルスクールから年次進行型の単位制普通科への教育課程の改編・充実を円滑に実施する。</p> <p>②授業改善に取り組み、生徒の主体的な学習活動を促進し、より深い学力の定着を目指す。</p>	<p>①フレキシブル型と年次進行型の教育課程が同時展開する移行期において、それぞれの特徴を生かした教育活動の充実に取り組む。</p> <p>②生徒の主体的な学び、深い学びとなるよう組織的な授業改善に取り組み、確かな学力の定着を図る。</p>	<p>①フレキシブル型生徒の学習ニーズに配慮した教育活動に取り組む。</p> <p>・年次進行型生徒の学力等を把握、分析し、教育活動の一層の充実に取り組む。</p> <p>②確かな学力の定着を図るための教員研修や研究授業を工夫するなど、授業改善を計画的、組織的に進める。</p>	<p>①移行期において、それぞれの教育課程に即して工夫、改善を行ったか。</p> <p>・29年度入学生の履修・修得した科目の割合、修得単位数の平均値がこれまでよりも上昇したか。</p> <p>②生徒による授業評価の結果から生徒の学習意欲の向上が見られたか。</p> <p>・生徒学力調査の結果が前年度に比べ改善したか。</p>	<p>①フレキシブルスクール型及び年次進行型のそれぞれの教育課程に配慮し、科目選択指導、時間割調整等、様々な課題解決に取り組んだ。</p> <p>②教員相互授業見学や教科の枠を超えた研究協議会等を通じて授業力向上を図り、生徒による授業評価の全項目で評価が上昇した。</p>	<p>①二つの教育課程の教育活動が円滑に行われるよう工夫を図る。特に、年次進行型生徒の進路に配慮した科目選択指導を進める。</p> <p>②生徒の学力把握や分析を更に進めるとともに、組織的な授業改善により、学習意欲の向上や確かな学力の一層の定着を図る。</p>	<p>①二つの教育課程に配慮したきめ細かい指導は評価できる。</p> <p>②年次進行型とフレキシブル型の特性を生かした教科指導によりそれぞれの生徒のよい点を引き出している。</p> <p>・授業評価の分析方法の検討が必要である。</p>	<p>①フレキシブルスクール型及び年次進行型それぞれに配慮し教育活動を円滑に推進した。</p> <p>②年次進行型、フレキシブル型の特性を生かした授業方法を検討し、生徒による授業評価の全項目で評価が上昇したことは評価できる。</p>	<p>①年次進行型生徒の実態把握に努め、進路を見据えた科目選択の指導を充実させる。</p> <p>②着実な学力向上を図るため、さらに授業評価の分析方法を検討し、教科指導を充実させる。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①学校行事、部活動の活性化を図り、多くの生徒に社会性や自己肯定感を育成する。</p> <p>②生徒個々の状況に応じて、一人ひとりを大切にする教育相談、支援の取組を推進する。</p>	<p>①社会の一員としての規範意識を醸成するとともに、学校行事や部活動等を通じて社会性や自己肯定感を育成する。</p> <p>②年次を中心に生徒の実態を把握するとともに、全職員で情報を共有し、課題の解決に取り組む。</p>	<p>①授業やLHRなど様々な機会を通じて規範意識の醸成に努める。</p> <p>・取組内容の検討、広報活動や周知方法の工夫などを通じて、学校行事や部活動等を活性化させる。</p> <p>②生徒の実態や特性を把握し、定期的に情報を共有する。</p> <p>・必要に応じてケース会議や外部機関との連携など支援体制の充実に図る。</p>	<p>①学校行事や部活動等の活性化に向け、校内の広報や運営の工夫を行ったか。その結果、学校行事の参加者数、部活動入部率は前年度に比べ上昇したか。</p> <p>②情報交換会や外部と連携した個別支援等を実施し、生徒が抱える課題をサポートすることができたか。</p>	<p>①学校行事や部活動の活性化に向け、校内広報や運営を工夫した結果、学校行事への生徒の参加意識の高まりが見えた。部活動入部率は前年並であった。</p> <p>②4,5,10月に情報交換会を実施、スクールカウンセラーも参加し全職員で情報を共有、課題解決に努め、必要に応じてケース会議を実施し対応した。</p>	<p>①学校行事や部活動の活性化を図るためのさらなる工夫が必要であり、生徒に主体的に取り組ませながら教員が支援できる方策を検討する。</p> <p>②担任、養護教諭、スクールカウンセラー三者の連携と、情報の共有方法が課題である。学校側がスクールカウンセラーを勧めても、生徒側が受け入れない場合があるなど方策を講じる必要がある。</p>	<p>①二つの課程の生徒が混在する中、学校行事・部活動の活性化を図っている点は評価できる。</p> <p>②スクールカウンセラーの利用方法や有効性等の周知をさらに進め、専門性を一層有効に活用する必要がある。</p>	<p>①学校行事への参加意識の高まりは図れたが、部活動入部率は上げることが出来なかった。</p> <p>②生徒の課題等については、情報交換会等により、職員で共有を進めることができたが、スクールカウンセラーの生徒への紹介方法等に課題が残った。</p>	<p>①新入生歓迎会での部活紹介の工夫や1年次担任団からの呼びかけ等により、部活動加入率を上げる。</p> <p>②LHRや年次集会等を活用して、スクールカウンセラーやその他相談体制について繰り返し周知を図る。</p>
視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等

3	進路指導・支援	計画的、組織的な進路支援やキャリア支援を推進し、生徒一人ひとりが自らの資質や将来としっかり向き合い、自ら進路を切り開こうとする態度を育む。	生徒一人ひとりの進路希望の実現に向け、関係グループと年次、担任が連携して、ガイダンス機能と相談体制の充実に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査等により生徒の進路意識を把握するとともに、試験結果等の分析を踏まえ、面談等を通じて生徒個々への進路指導の充実に図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査に基づき、希望する進路を実現した生徒の割合が90%を超えたか。 相談体制の充実に図り、面談等を通じて主体的な進路学習に取り組ませることができたか。 ガイダンスルームの運営を工夫するなど、ガイダンスルームの利用者が前年度に比べ増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査を行い、結果を学校全体で共有すると共に、生徒個々の進路希望に沿った指導を行った。 ガイダンスルームの機器・資料の整備に努めるとともに、担当者が常駐し利用生徒が増加した。今年度利用者数延べ820名(昨年度650名)となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望を早い段階に構築させ、実現するための対策に取組ませる。 教育課程の移行に伴い、有効なガイダンスルームの活用方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 機器等の整備やサポートティーチャーの常駐によりガイダンスルームの利用者が増えたことは評価できる。 年次進行型への移行に伴うガイダンスルームの活用方法の検討が有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査を導入し、その結果をよりきめ細かい進路指導に結び付けた。 ガイダンスルームの設備等を充実させ利用者増を図った。生徒の個別相談に応じる体制を継続させるよう方策を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査と進路結果調査を併せて分析し、進路希望実現率を高める。 ガイダンスルームの開設時間等を調整により、個別相談体制等進路支援を充実させる。
4	地域等との協働	<ol style="list-style-type: none"> 様々な場面で地域及び外部機関等と広く連携した教育活動の展開に努め、生徒の学びや経験の幅を広げる。 外部に向けて積極的な情報発信に努め、本校の教育活動への理解と信頼が深まるよう取り組む。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の学びや経験がより深まるよう地域や外部機関との教育活動の充実に取り組む。 開かれた学校づくりを推進し、保護者をはじめ、地域の方々に本校の教育活動への理解を促進する。 	<ol style="list-style-type: none"> インターンシップ、校外講座、ボランティア活動等に生徒が主体的に参加できるよう工夫する。 HPや学校説明会等情報発信の工夫、充実に図る。 防災教育やボランティア活動など地域との連携を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 情報提供方法等の工夫を図り、インターンシップ、校外講座、ボランティア活動等の参加者が前年度より増加したか。 HPで学校の特徴や生徒の活動をより具体的に紹介することができたか。 学校説明会の参加者数が前年度に比べ増加したか。 防災分野で地域との連携を進めることができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ボランティア募集情報を、定期的に教室掲示等行い新規参加者増を図った。単位認定のボランティア活動は例年並みの4人である。 学校説明会参加者は8月372名、11月362名、12月218名、計952名であった。 中学校訪問を実施し、本校の教育活動等の周知を図った。 11/26 戸塚区主催の防災研修に生徒4名が参加。 	<ol style="list-style-type: none"> ボランティア参加者増を図るため新規に「古着回収活動」「戸塚ふれあい区民まつり学生ボランティア」等に参加を検討している。 来年度の学校説明会も、生徒の活動が具体的にわかる広報に努める。 11月に参加した地区の防災研修を3月の生徒総会で報告し来年度の参加勧誘を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 教育課程が変わっても、ボランティア活動を活性化させる指導は継続してほしい。 地域と連携した防災活動を検討することは有効である。 	<ol style="list-style-type: none"> ボランティア情報提供を工夫し参加者増を図った。さらに参加生徒を増やしたい。 中学校訪問等情報発信を充実させた。 戸塚区主催防災研修へ初めて生徒を参加させた。さらに参加生徒を増やしたい。 	<ol style="list-style-type: none"> ボランティアに気軽に参加できる機会を設定する。 防災研修を生徒総会等で報告し来年度の参加者増を図るなど、ボランティア等も含め、地域との連携をより充実させる。
5	学校管理・学校運営	学校生活が生徒の成長にとって有用なものでありかつ安全・安心な場であり続けることを目指し、創意工夫をもった取組を大切にす学校経営を進める。	生徒や学校の現状を踏まえ、課題を的確に把握し、その解決に向けて創意工夫をもって全体で学校運営に取り組む。	<ol style="list-style-type: none"> 事故不祥事防止の取組の充実に取り組む。 学習の場にふさわしい安全で快適な教育環境の整備を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> 事故防止会議や校内研修会を定期的実施することができたか。また、内容の工夫を行い、職員が一体となって事故不祥事防止に向けて取り組めたか。 教育課程の移行に即して、教育環境、施設整備が着実に進めることができたか。 校内美化活動を推進することができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 事故防止会議等に加え、個人情報管理を徹底するためシュレッター使用制限期間設定等を実施した。 ICT活用授業を促進するため、機器や設備等教育環境整備を行った。 美化委員会による定期清掃等生徒主体の校内美化を推進した。 	<ol style="list-style-type: none"> 事故不祥事防止により具体的な事例研究等により職員の意識を高める。 ICT機器等整備に継続して努め、教育効果の向上を図る。 年次進行型の拡大に伴い、生徒による清掃方法や、業者委託している清掃内容を精査し、清掃活動全体の再構築を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の移行に伴い、清掃方法や校内美化等の検討を行い、より円滑に進めてほしい。 	<ol style="list-style-type: none"> 事故不祥事防止に取り組み、個人情報管理を徹底した。 ICT機器等整備を図った。 年次進行型にも対応した校内美化計画案の策定が必要である。 	<ol style="list-style-type: none"> 事故不祥事防止の研修会等を工夫する。 生徒による清掃方法や、業者委託している清掃内容を精査し、清掃活動全体の再構築を図る。